

# 今後の小中学校におけるICTを活用した学びについて

## 1 国が示すGIGAスクール構想

GIGAスクール構想

✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する

✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

これまでの教育実践の蓄積 × ICT = 学習活動の一層の充実  
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

	「1人1台端末」ではない環境		「1人1台端末」の環境
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる</li> </ul>	学びの深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる</li> <li>子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に</li> </ul>
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）</li> </ul>	学びの転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>各人が同時に別々の内容を学習</li> <li>個人個人の学習履歴を記録</li> <li>一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能</li> </ul>
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を発表する子供に限られる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有</li> <li>子供同士で双方向の意見交換が可能に</li> <li>各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる</li> </ul>

**ICTの活用により充実する学習の例**

- ☑ **調べ学習** 課題や目的に応じて、インターネット等を用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- ☑ **表現・制作** 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- ☑ **遠隔教育** 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子供たちが多様な考えに触れる機会、入院中の子供と教室をつないだ学び
- ☑ **情報モラル教育** 実際に情報・情報技術を活用する場面（収集・発信など）が増えることにより、情報モラルを意識する機会の増加

文部科学省「GIGA スクール構想の実現へ」（リーフレット）より

## 2 本市がICT活用でめざす学びについて

### (1) ICT活用による子どもたちにつけたいカー情報活用能力

#### ①情報収集力、情報整理力、情報発信力

インターネットやプレゼンソフト等を活用し、インターネット等を用いて必要な情報を収集したり、それらの情報を発信するために整理をしたりするなど、情報活用の実践力を育成する。

#### ②プログラミング的思考力

コンピュータを用いた活動だけでなく、学校における教科等横断的な取組を通して、論理的に考える力を育成する。

### ③情報モラルの必要性の理解

情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する場面において、他者や社会への影響を考えたり、誤った情報に対する危険回避する判断力を育成したりするなど、情報社会で適正な行動を行うための基になる考え方と態度を育成する。

### ④ICTスキルの獲得

タブレット操作や文字入力の方法、マウス操作の仕方などの基本的な操作をする力を育成するとともに、画像の保存や課題提出の方法などの個人の情報管理する力を育成する。

## (2) タブレット端末1人1台を活用した取組について

### ①取組の趣旨

- 公正に個別最適化された学びを実現するための主体的で多様な学びの手段として活用
- 学校でも家庭でもシームレスに学ぶことができる学習環境

### ②具体的方策

(学校) ○「SKYMENU Class」を活用した「一斉学習」「個別学習」「協働学習」

○授業での課題解決や調べ学習、プレゼン資料作成に活用

○オンライン学習教材「学んでE-net!」を活用した学習内容の定着

○小学校におけるプログラミング教育（「四日市版カリキュラム」に基づく）

○遠隔双方向型授業の実施

- ・外部講師の講演、他の小中学校や海外等との交流
- ・不登校や病気療養中の児童生徒に対する学びの保障 など

(家庭) ○課題解決や調べ学習に活用

○オンライン学習教材「学んでE-net!」の活用

○学校ホームページの配信動画の活用

○学校ホームページによる課題提示及び提出

### ③環境整備

○全普通教室と特別教室6室に大型提示装置の導入（タブレット端末との連携のため）

○全小学校へのICT支援員の配置及びICTサポーターによる支援（令和2年度～）

○校内ネットワーク環境の整備（校内無線LANの設置）

○インターネット環境が整っていない家庭等にWi-Fiルータを貸与

○ICT推進校として小学校3校を指定し、AIドリル(自己採点機能)等の活用及び検証

## (3) 今後の方向性について

学校における取組と家庭学習との連携を強化し、学習内容の理解や定着を図ることを目的とし、タブレット端末の持ち帰りを行う。具体的には以下のような活用の方法について検討を進めていく。

(方法) 週末（土日）や祝日、長期休業におけるタブレット端末の家庭への持ち帰り

(内容) 家庭学習（課題提示、課題提出）、家庭（保護者及び児童生徒）との連絡、課題解決や調べ学習、オンライン授業等を通じた情報活用能力の育成

(環境整備) クラウドの利用を検討

### 3 小中学校におけるオンライン授業について

#### ○学校及び家庭におけるインターネット環境整備について

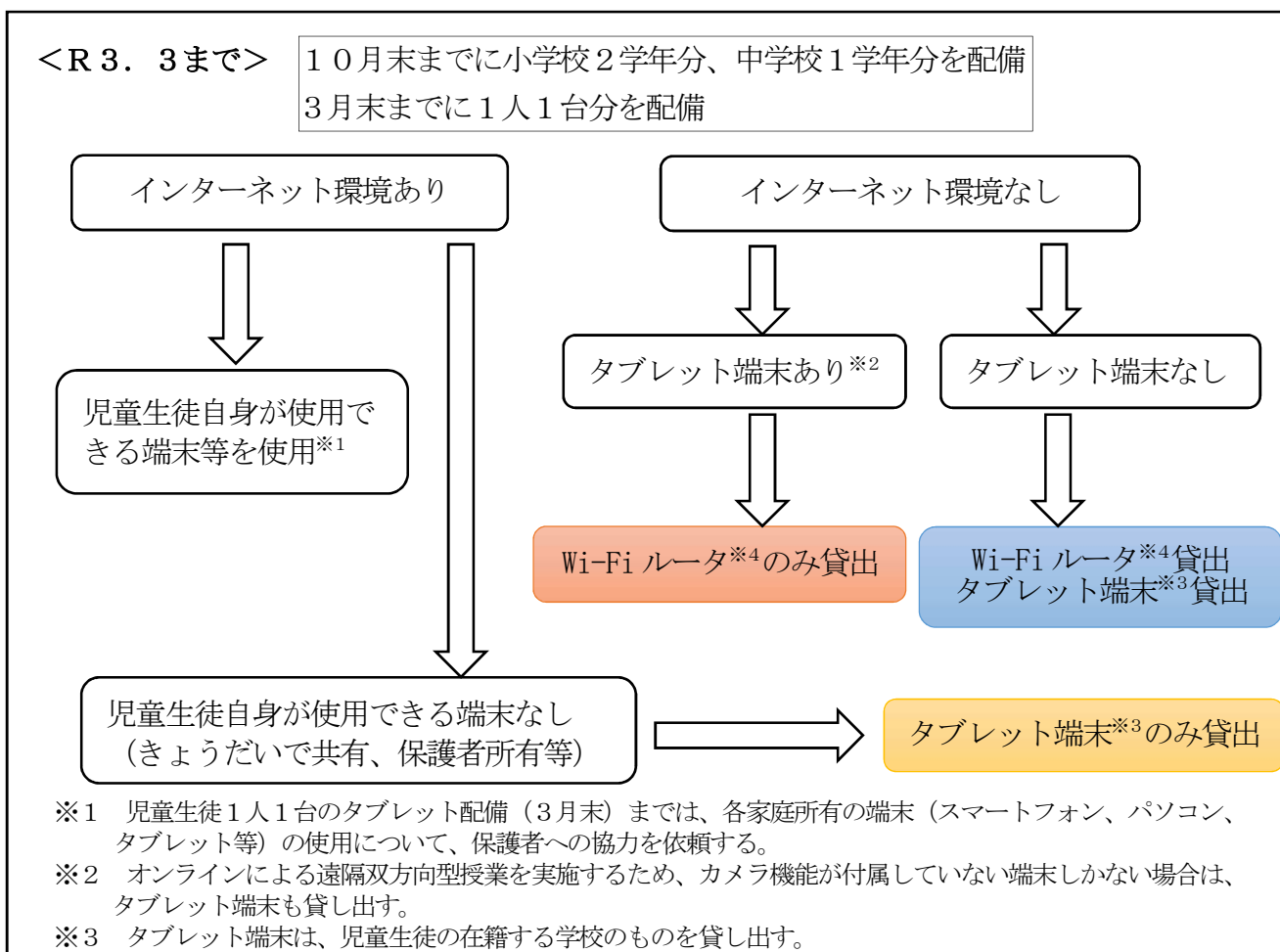
#### タブレット端末配備計画について

(台)

	R1 (導入済み)	R2		
		8月末(R2当初)	10月末(R1補正)	3月末(R2補正)
小学校	1,480	1,885	1,961	10,461
中学校	0	1,805	835	5,150
小学校計	1,480	3,365	5,326	15,787
中学校計	0	1,805	2,640	7,790
備考	小学校：1校40台		小学校：2学年分 中学校：1学年分	小学校：1人1台分 中学校：1人1台分

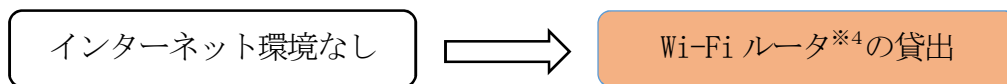
### 4 オンライン授業実施に向けて

#### (1) 環境整備について



#### <R3. 4～>

1人1台タブレット端末持ち帰りが可能

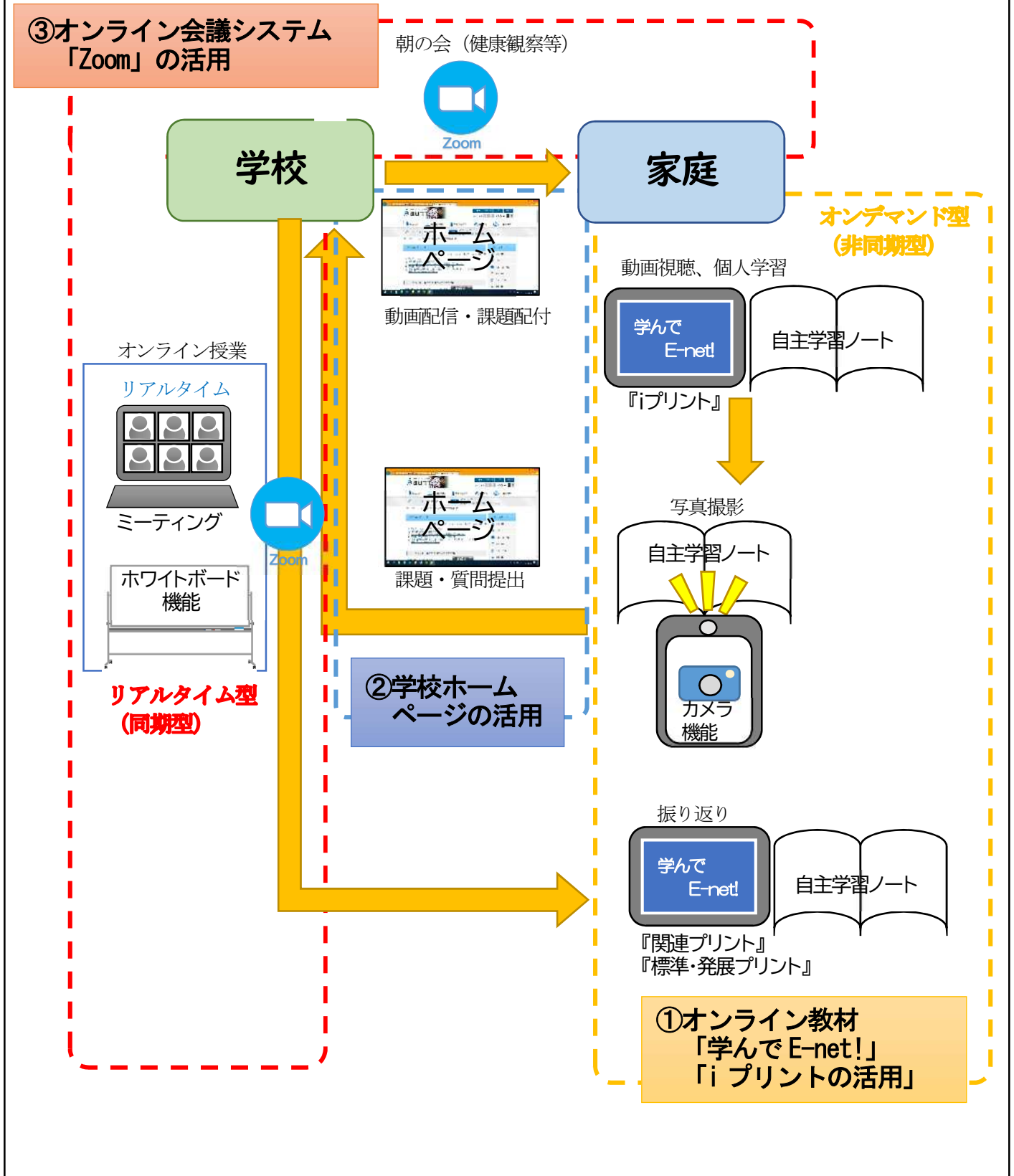


※4 Wi-Fi ルーターは、市より児童生徒の在籍校を通じて貸出

(2) 四日市版オンライン授業の取組方法について

本市では、以下の四日市版オンライン授業モデルに基づき、オンライン授業に取り組む。

<四日市版オンライン授業モデル図>



### ①オンライン教材「学んでE-net!」「i プリントの活用」

○ねらい…オンラインによる四日市市独自の学習教材を活用し、児童生徒の学習習慣の定着を図る。

○「i プリント」とは

「学んでE-net!」からダウンロード可能な本市採択教科書に準拠したプリント。端末の画面を見ながらの学習とi プリントを印刷しての学習の併用が可能。

○取組方法

- ・該当学年の学習内容のi プリントに取り組む。(学習内容の定着)
- ・該当学年以外の学習内容のi プリントに取り組む。(授業の振り返り、予習、復習)
- ・学習内容の理解のために動画を視聴する。

### ②学校ホームページの活用

○ねらい…各校ホームページを活用し、学校と家庭との連絡、児童生徒の課題提出、学習に係る動画配信等、単方向の仕組みを活用しながら学習内容の理解を深める。

○取組方法

ア. 授業動画の配信

- ・課題提示…ノートやi プリントに考えを整理するなど、自分で学習を進める。
- ・学習内容の解説…解説を見ながら学習内容の理解を深める。

イ. 課題提出

- ・児童生徒が、自分の学習したノート、i プリントの画像等を、各校ホームページ上に設置されたフォルダにアップし、それを教員がチェックする。(ただし、個人にIDやパスワードが設定されるため、他の児童生徒は閲覧不可)

ウ. 家庭との連絡

- ・次の日の予定などの連絡や学校通信、学年通信等による連絡などを配信する。

### ③オンライン会議システム「Zoom」の活用

○ねらい…オンライン会議システム Zoom を利用し、同時双方向型での授業を行うことで、臨時休業または学級・学年閉鎖、出席停止等、一定期間、学校における教育活動が停止した際に、児童生徒の健康状態の把握及び学びの継続を行う。

○取組方法

ア. 健康観察の実施

- ・臨時休業期間等の際に、毎日、決まった時間(朝の会など)に健康状態を確認する。接続する時刻や時間については、各校で設定する。

イ. オンライン授業の実施

課題提示ー(オフラインで自分の考えを整理)ーノート等提出ー意見交流等ー(オフラインで授業の振り返り)といったように、オンラインとオフラインを場面によって使い分けたオンライン授業を実施する。意見交流等においては、ホワイトボード機能も活用する。